

令和4年度の学校運営に関する自己点検・自己評価結果について

津看護専門学校

令和4年度の学校運営に関する様々な取組について、本校の自己点検・自己評価委員会により、9つのカテゴリー毎に整理した125の評価の視点をもとに「自己点検・自己評価」を実施しました。

評価は、点数制を用い、その尺度は、「できた。当てはまる。(3点)」、「ある程度できた。ある程度当てはまる。(2点)」、「できなかった。当てはまらない。(1点)」の3区分としました。

令和4年度の評価における「9つのカテゴリー」の「評点結果」及び「主要な評価の項目」と「評価の概要、課題等」は、次のとおりであり、前年度を上回る成果があったものが2カテゴリー、前年度とほぼ同程度の成果であったものが7カテゴリーという結果となりました。

は評価に当たった9つのカテゴリー

I 学校運営 (評点: 3.0) 前年度評点: 2.9

(1) 年間目標の設定・管理

- ① 本校の教育理念を踏まえた教育目標に資する全体目標として「年間教育方針」を設定し、教員会議において、全教員が目標の内容と結果の評価を共有しました。
- ② 結果の評価は、単に○か×かを振り返るのではなく、新たに取り組むべきこと、改善していくべきことなどについて、全教員間でしっかりと議論しながら実施しました。

参考: 全体目標 (主なもの)

○次のような学生の成果を得るための教育の推進

- ・健康や環境との関係性を踏まえて人間を理解するための教育
- ・看護の専門職である自覚と責任を持って倫理的に行動するための教育
- ・共感的態度やコミュニケーション力を備えるための教育
- ・科学的根拠に基づいて対応するための教育
- ・保健、医療、福祉の多職種連携のもとで円滑に看護を提供していくための教育
- ・主体的に看護を探究して自己学習を継続していくための教育

(2) 学校の独自性の創出

- ① 「少人数教育の実践」が本校の最も注力している教育面の強み・特色であり、そのために令和4年度は、次のような取組を実施しました。
 - ・各学年の担当教員を3名(担任1名、副担任2名)配置し、学生の学力や学生生活全般の態様に応じたきめ細やかな指導・助言を行う。
 - ・特に、卒業や国家試験の合格が厳しい状況にある学生に対しては、個別の講義や演習の追加実施により、対象学生へのサポートの充実に取り組む。
- ② なお、令和4年度の国家試験は、残念ながら受験者全員の合格とはなりませんでしたが、令和5年度に向け、引き続き対策の継続・強化が必要と考えています。

(3) 教員会議の効率的な運営

① 本校の年間教育方針や教育活動の諸計画の内容について、さらには、それらの展開方法等について、トップダウンではなく、教員会議の場で全教員出席のもとに様々な視点やアイデアを出し合いながらしっかりと意見交換を行って決定しました。

(会議開催頻度：2～3回/月 程度)

② 教員会議は、検討や議論を深めていけるように十分な時間を確保して開催しており、そのために会議開催時期と主要な審議事項を示した「年間開催計画」の策定や会議資料の事前配付の徹底など効率的な会議運営に努めました。

Ⅱ 教育課程・教育活動（評点：2.9）前年度評点：2.9

(1) 教育活動に関する目標設定と達成結果の分析

① 教員毎の目標については、本校の看護教員ラダー（※）に基づく年間目標を設定し、それらの進捗状況を確認・管理しながら、結果の評価を行いました。なお、評価に当たっては、副校長、教務主任と本人による三者面談を実施し、結果の共有を図ります。 ※看護教員ラダー：教員が段階的に能力向上していくための内容及びレベルを示すもの

参考：教員毎の年間目標の例

○教員としてのあるべき姿とそのために必要な心構えや日常の行動を明確化した目標

○各教員自らが充実させるべきと考える資質とその向上策を示した目標

○各教員自身のスキルアップのために実施・受講する研究・研修に関する目標 など

② 教員毎の目標設定に加えて、「年間教育方針」を踏まえた

ア) カリキュラムの内容や教育面で重要視する視点などを反映させた学年毎の取組目標の設定

イ) 実習調整・教育課程・入試対策・教育物品の管理・図書・健康管理など教員が業務分野毎に編成している「係」による取組目標の設定や計画策定を行い、学校の教育活動全般にわたってもれなく対応できる仕組みとして運用しました。

③ これらの目標や計画の達成結果については、年度末に、関係教員による評価を行ったうえで、教員会議の場で全教員により最終評価を行うという二段階評価を実施して翌年度の目標設定・計画策定につなげているところですが、令和4年度の結果としては、年度当初に設定した目標や活動計画について、概ね達成することができました。

④ なお、目標は、定性的なものが多く、第三者による評価になじみにくいものもあることから、今後、数値目標を充実させていくことについても検討を進め、一定の客観的な評価へと結びつくよう改善を図っていきたいと考えています。

(2) 教育課程及びシラバス（授業計画）の妥当性

① 令和4年度は、1年生が新カリキュラム、2・3年生が旧カリキュラムを適用することを基本とするなど、新旧カリキュラムが混在する中で円滑に教育活動を進めることが必要となりましたが、大きな問題もなく、当初の計画どおりに進めることができました。

なお、令和5年度以降も適切かつ円滑に教育課程を履修させ、単位を修得させることができるよう県と協議を行い、新旧カリキュラムについて一層柔軟な適用・置き換え（読み替え）を可能にするための学則改正を実施しました。

- ② 令和4年度は、依然として厳しい新型コロナウイルス感染状況にあったことから、オンライン講義を効果的に取り入れ、感染防止対策を進めながら計画的な教育課程の推進に努めました。
- ③ シラバスについては、国家試験の出題基準に見合ったものになっているか、授業の内容と一致しているかなど、様々な視点により整理を行うとともに、学生の意見・反応を踏まえた見直しも行いながら策定・運用しました。

(3) 授業内容・指導方法の評価と工夫

- ① 授業内容や指導方法については、学生に対するアンケートや教員相互の授業批評（本校での呼称：授業研究）等も行いながら、より効果的に授業や実習が進められるように取り組みました。
- ② 今年度の学生アンケートでは、教育活動等に関する満足度合いを4段階評価で確認し、さらに、良かった点や不足している点などを自由記述式で詳細に確認しました。これにより、今年度の取組の評価の参考となり、各学生が教員に望むことを明確化して次年度の対応につなげることができました。
- ③ アンケートによる学生の意見や要望は、専任教員だけでなく、外部講師や実習指導者とも共有し、全ての教育課程で改善等が進められるように取り組みました。

(4) 実習における学習環境や指導体制の妥当性及びインシデントの把握と原因分析

- ① 実習については、実習先の指導者（実習指導者）と教員が十分に意思疎通し共通の視点で学生に対応できるよう、臨床指導者会議への参加、実習指導者への学生意見等の情報提供、教員間の定期的な情報交換を行うとともに、実習時に生じたインシデントの把握と分析や再発防止策の検討を行いました。
- ② インシデントの再発防止策の検討結果については、シミュレーション演習や技術練習など校内での学生指導にも反映させるなど、学生の能力向上につなげることができました。

Ⅲ 入学・卒業対策（評点：2.9）前年度評点：2.9

(1) 入学生の確保

- ① 少子化の進展など厳しい環境の中で本校の定員35名（一学年）の入学生を確保するため、全教職員による様々な取組を展開し、その結果、令和4年度は、前年度と同数の受験者数（65名）を確保することができました。

参考：入学生確保のための主な取組

- 高等学校への個別訪問 ○来校型・Web型双方のオープンキャンパスの実施
※新型コロナウイルス感染症対策としてR4は来校型中止
- 高等学校の進路指導教員を対象とした学校説明会の開催
- 各種の進路ガイダンスへの参加 ○高校生・社会人による個別見学の受入れ など

(2) 中途退学の防止対策

- ① 中途退学者を一人でも少なくしていくことや、そのための具体策の実施について、教務主任の年間行動目標の1つとして位置づけて取り組みました。具体的には、各学生の学校生活全般をメンタル面も含めて教育的視点で観察し、必要と考えられるタイミングで教員がきめ細やかに関わっていくこと、学力の低い学生に学習方法の指導・助言を行うこと、必要と考えられる場合にはスクールカウンセラーのアドバイスも得ながら対処していくことなどを徹底・実践しました。
- ② この結果、令和4年度の退学者数は2名となり、令和3年度の9名を大きく減少させることができました。

(3) 看護師国家試験対策と成果

- ① 1年次からの国家試験対策の実施と受験者全員合格を教務主任の年間行動目標の1つとして位置づけるとともに、「国家試験対策 年間実施計画」を策定し、学年毎の学習計画や対策授業、外部講師を活用した講義、複数の実施主体による模擬試験等をスケジューリングし、もれなく継続的に対策を講じることができるように取り組みました。
- ② 令和4年度は、9年連続受験者全員合格を逃し非常に残念な結果ではありましたが、全国平均合格率90.8%、3年課程養成所の全国平均合格率95.7%を上回る96.7%の合格率を確保しました。

IV 学生生活への支援（評点：3.0）前年度評点：3.0

(1) 心身の健康管理への支援

- ① 中途退学者対策の一環でもある、各学生の学校生活全般をメンタル面も含めて教育的視点で観察し必要と考えられるタイミングで教員が関わっていくことや、スクールカウンセラーの配置、常日頃からの学生とのコミュニケーションなどにより、健康管理面においても必要な指導・助言・支援を行ってきました。
- ② 特に、令和4年度は、新型コロナウイルス感染症が全国的に蔓延するなか、クラスターの発生を抑止し、校内及び実習現場における適切な感染予防・拡大防止を図るため、毎日の体温測定や健康状態の把握を行うとともに、休校措置の実施や検査キットの活用など、適切なタイミングで有効な対応や学生サポートを行うことができました。

(2) 学生の自主的な活動に対する支援

- ① 例年と同様に、校内の学生で構成する「自治会」によるレクリエーションをはじめとする様々な活動の場所の提供や授業時間割上の配慮等に努めました。
- ② 学生が各自で行うボランティア活動等を支援・促進するため、献血活動や難病への理解を深める取組に関する情報提供を行うとともに、関連する機関（血液センター）への見学会を実施しました。

- ③ 令和4年度は、新型コロナウイルス感染症が全国的に蔓延するなか、対外的・積極的な学生活動について一定の制約を受ける状況にありましたが、今後は、学生の自主的・主体的な活動が一層活発化するための方策を検討していきたいと考えています。

V 管理運営・財政（評点：3.0）前年度評点：3.0

（1）適正な予算執行、予算管理

- ① 本校の予算執行においては、教職員が経費節減に関する十分な理解・認識のもと日常の教育活動、事務業務、施設・設備管理を進めました。
- ② 令和4年度においては、今後の収支状況の一定の改善が図れるよう、授業料をはじめとする学生の負担について、他校よりも軽い学生負担となる範囲内で増額させるための増収計画を検討・策定し、教務委員会において令和6年度から実行に移していくための了承を得ました。

（2）危機管理の徹底

- ① 毎年度実施している校内の消防・防災訓練について、令和4年度は11月に開催し、津市消防本部職員の方々の指導による消火器での初期消火訓練、大規模地震の避難訓練、県防災対策部の地震体験車を用いた地震体験と同部職員の方による地震防災の講義を実施し、学生の防災意識の維持・向上に努めました。
- ② 大規模地震や大規模な風水害に備えるため、校内の備蓄物資の点検・補充を行うとともに、緊急避難セット（水・非常食や衛生用品などが入っているリュック）を全校生徒及び全教職員が保有するよう、新入生に追加配付を行いました。

VI 施設・設備（評点：3.0）前年度評点：3.0

（1）施設・設備の点検とメンテナンス

- ① 校内の水道設備、電気設備、消防設備、浄化槽については、関係法令に基づく専門業者による定期点検や、老朽箇所・不具合の補修等により、安全性・利便性の維持に努めました。

（2）適切な教材、図書の確保と活用

- ① 看護実習室・情報科学室・視聴覚教材室の備品・機材の点検・交換等を定期的（年2回）に実施するとともに、実習用品の交換・配置数の見直し等を行い、実習や演習が適切かつ円滑に実施できる環境づくりに努めました。
- ② 図書室の図書については、司書職員に加え学生図書委員（1・2年生8名）を選任し、円滑に貸出ができる態勢を整えました。また、計画的に図書の購入を行うとともに、掲示板への新刊案内の掲示や貸出の多い図書の紹介など情報提供の充実にも努めました。

VII 教職員の育成（評点：3.0）前年度評点：2.7

（1）職場内研修の実施

- ① 職場内研修については、教員会議における教員間の意見交換が、気づきを得て各自の教育力を高めていくための機会でもありととらえており、令和4年度は、2～3回／月 程度のペースで開催しました。
- ② 教員会議に加え、教員と学生間のコミュニケーション上の問題点等を事例毎に議論し、その解消方法を検討する「倫理カンファレンス」や、特定の教員の授業内容を他の複数教員が確認し、終了後に、大変良いと思われたこと、一層向上させていくべきこと、配慮した方がよいと思われることなどを率直に話し合う「授業批評（本校での呼称:授業研究）」を実施し、教員の教育力の一層の向上につなげることができました。

（2）校外研修・臨床看護研修への参加と研究活動の実施

- ① 令和4年度の現場研修としては、医療機関や福祉施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設等）において8名の教員が計9回（1回当たり1～3日）の研修を受け、研修後に報告会を開催して教員間で成果を共有するなど、看護の専門性の一層の向上に努めました。
- ② 現場研修以外の校外研修については、令和4年度は新型コロナウイルス感染症防止対策の観点から、会場へ赴いて受講する研修ではなく、オンラインでの受講が可能なものに限定して参加することとし、そうした制約がある中で8割の教員が研修を受講して各自の教育力の向上に努めました。
- ③ 教員による独自の研究活動として、「技術経験録を活用した技術到達度の向上への意識調査」をテーマとした研究を進め、本校を運営する法人（暁純会）により年1回開催される看護研究発表会において発表を行いました。

VIII 広報（評点：3.0）前年度評点：3.0

（1）積極的な情報提供

- ① 本校の対外的な情報提供手段としては、パンフレット等の印刷物やホームページ・Instagramによる情報発信によっており、令和4年度は、ホームページに掲載している写真を大幅に入れ替えるなど、内容の充実・改善を行いました。
- ② 現在のホームページは作成して10年程度が経過していて、構造面における理由からタイムリーな情報提供を行ううえで制約を受けるため、令和5年度に抜本的な再構築を図ることとしています。

Ⅸ 地域との連携（評点：3.0）前年度評点：3.0

（1）地域内や学校周辺での社会貢献活動

- ① 令和4年度は、新型コロナウイルス感染症が全国的に蔓延するなか、積極的な社会貢献活動についても一定の制約を受ける状況にありましたが、例年と同様に、学校周辺の清掃活動を行うとともに、学生による献血や難病への理解を促進するための取組を行いました。
- ② 献血は、医療人を志す本校学生に関連のあるボランティア活動でもあり、教員が全学生に対して献血の重要性を理解させながら、県の啓発事業「ヤングミドナサポーター（啓発活動を行うボランティア）の募集」についての情報提供を行うとともに、1年生による三重県赤十字血液センターの見学会を実施し、令和4年度は2名の学生がヤングミドナサポーターとして活動し、18名の学生が献血の申込みを行いました。
- ③ 難病への理解促進については、三重県難病相談支援センターが毎年実施している「サマースクール」に4名の学生を参加させることができ、難病に関する制度や具体的な疾病に関する知識の習得とともに、難病患者や家族の方々との交流など貴重な体験をさせることができました。
- ④ 本校は、市街地から離れているという立地条件のため、大半の学生がスクールバスで一斉に登下校するという通学方法によっており、学生による授業終了後の積極的な活動を促しにくい側面がありますが、令和5年度は、学生の一体感を醸成しながら、自主的活動が一層活発化していけるよう検討を進めていきたいと考えています。